No.448

広報 みぶ

8年 9月

鳥居 忱 翁

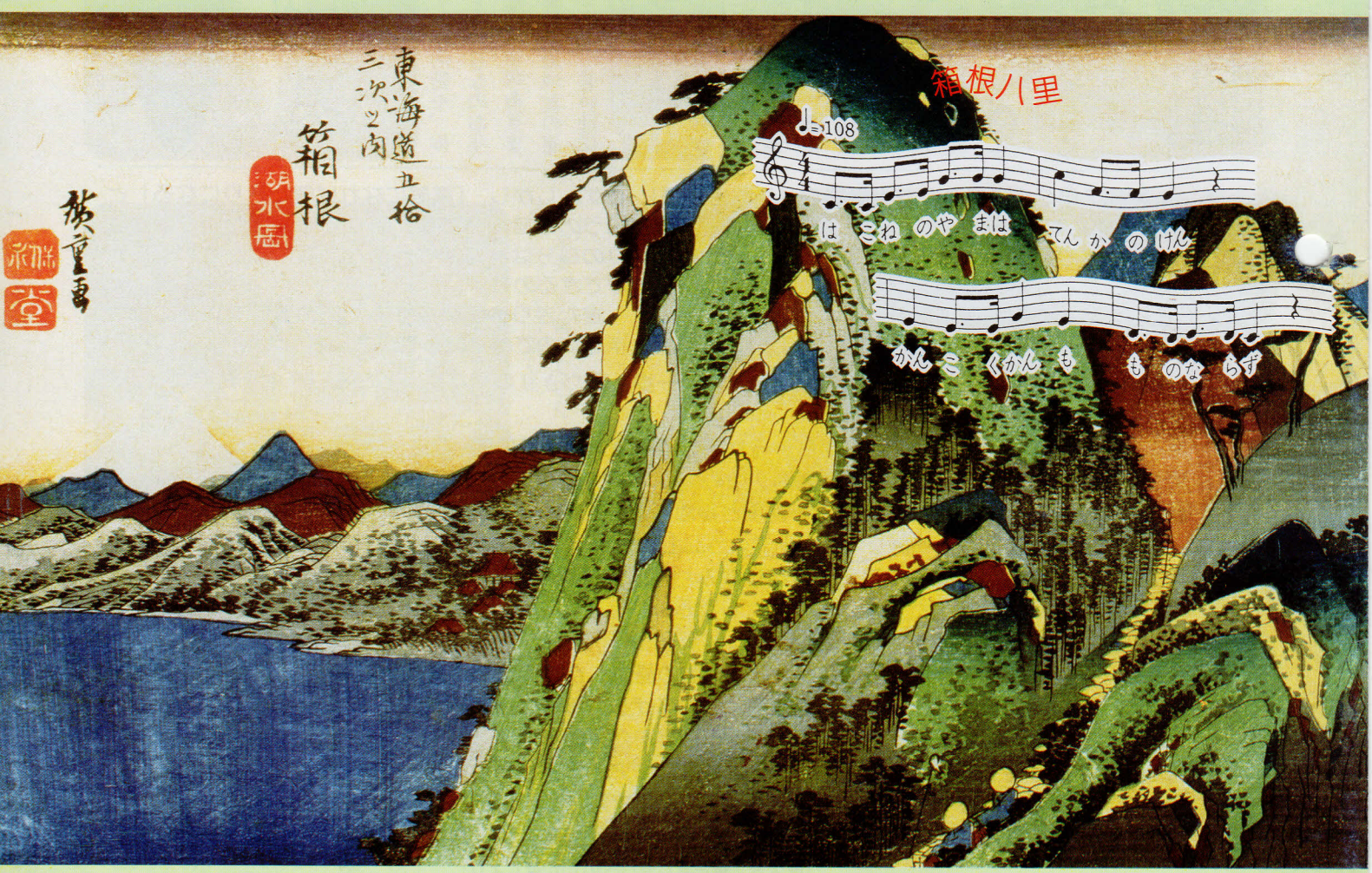
町教育委員会では、平成４年度から郷土の人物調査を実施してきましたところ、日本近代音楽の先駆者たる人物を確認しました。

その人物こそ「唱歌」をとおして西洋音楽を普及させ、芸術音楽、教育音楽の在り方を示した音楽教育家・鳥居　忱です。

今回、教育委員会では鳥居　忱没後80年を記念し、10月19日から11月24日まで『「箱根八里」と作詞家・鳥居　忱』と題して、企画展示を開催します。　（関連記事Ｐ8.9）

近代音楽の先駆者

鳥居（まこと）忱翁



発行　壬生町役場　編集 総務部企画財政課　毎月15日発行　〒321-02 栃木県下都賀郡壬生町通町12番22号　☎0282-82-1234

おじいちゃん おばあちゃん いつまでもお元気で

一人ひとりが考える 老後の「生きがい」と「健康」づくり

わが国は現在、世界一の長寿国です。平均寿命は男性が76歳を越え、女性は83歳に届こうとしています。仮に60歳で定年退職したとしても、その後に約20年の人生があるわけです。

老後を生きがいあるものとするために、最近では、新たに仕事をもったり、趣味やスポーツに没頭したりするなど、積極的に活動するお年寄りが増えています。

◇経験を活かせる「ボランティア」がおすすめ

「何か人の役に立ちたい」と思っている人には、ボランティア活動がおすすめです。活動内容はさまざまで、これまでに培ってきた能力や技術を生かした活動や、体の不自由な人や一人暮らしのお年寄りに対する介護などがあります。こうした活動は、地域との連帯にもつながり、また、若い世代との交流にもなります。

◇「健康」が何より

しかし、こうした活動も、体が元気であるからこそできるものです。満足のいく、幸せな人生を送るためには「健康である」ことが何よりです。高齢になれば、病気にかかりやすくなり、治療期間も長くなります。こうしたことを踏まえ、普段から、バランスのとれた食事や適度な運動を心がけるなど日々の健康づくりに努めましょう。また、定期的に健康診断を受けることも欠かせません。

町長の高齢者訪問

長寿を祝い自宅を訪問

90歳以上のお年寄りの長寿を祝って、８月20日・21日・22日、23日の４日間、町長の高齢者訪問が行われ、町長並びに助役、収入役、民生部長、福祉課長が90歳以上の125人のお宅を訪問し、町からの記念品を贈り長寿をお祝いしました。

町の最高齢者は、中表町の和貝ハナさんで明治29年５月14日生まれの１００歳です。

町内最高齢の和貝ハナさん（100歳）

男性最高齢の新本春吉さん（95歳）

健康一口メモ

寝たきりゼロへの10か条

平成７年８月に行われた世論調査「高齢者介護」（総理府広報室調査）によると、「自分自身が老後に寝たきりや痴呆症になるかもしれない、と不安に思うことがあるか」という問いに対し、「ある」と答えた人の割合は７割近くになりました。やはり、老後の健康について、皆さん関心があるようです。しかし、「高齢になれば寝たきりになる」というのは昔の話です。現在では、寝たきりのかなりの部分は、適切な介護と訓練によって防ぐことができるのです。

寝たきりの予防をするための要点を以下に掲げましたので参考にして下さい。

第１条　脳卒中と骨折予防　寝たきりゼロへの第一歩　寝たきりの主な要因となる脳卒中を防ぐことから、寝たきり予防は始まります。

第２条　寝たきりは　寝かせきりから作られる　過度の安静　逆効果

第３条　リハビリは　早朝開始が効果的　始めよう　ベッドの上から訓練を

第４条　くらしの中でのリハビリは　食事と排泄、着替えから　基本的動作である食事、排泄、着替えなどを、なるべく元気なころと同じように行うようにしましょう。

第５条　朝起きて　先ずは着替えて身だしなみ　寝・食分けて　生活にメリとハリ　特に外出の予定がなくても、朝起きたら着替えて身だしなみを整えましょう。また、寝る場所と食事をとる場所を分けるなど生活にメリハリをつけることが肝心です。

第６条　「手は出しすぎず　目は離さず」が介護の基本　自立の気持ちを大切に

第７条　ベッドから移ろう　移そう車椅子　行動広げる　機器の活用　寝たきり状態から自立するには、さまざまな福祉機器の活用が効果的です。

第８条　手すりをつけ　段差をなくし　住みやすく　アイデア生かした住まいの改善

第９条　家庭でも社会でも　よろこび見つけ　みんなで防ごう閉じ込もり

第10条　進んで利用　機能訓練　デイ・サービス　寝たきりなくす　人の和　地域の和

（厚生省「寝たきりゼロへの10か条」より）

平成８年度　長寿番付表

（平成８年９月１日現在　ただし年齢については平成８年12月31日現在）〔敬称略〕

《亀》				番付	《鶴》			
町内	生年月日	年齢	氏名		氏名	年齢	生年月日	町内
中表町	明治29年５月14日	100	和貝ハナ	横綱				
中泉	明治31年３月27日	98	川又ムメ	大関	木村ナカ	99	明治30年２月25日	至宝町北
					鈴木キセ	97	明治32年６月28日	しもつけ荘
しもつけ荘	明治33年１月14日	96	長戸ヤエ	関脇	前原トシ	96	明治33年２月６日	栄町
安塚南部	明治33年３月30日	96	佐藤ツネ		上田タミ	96	明治33年４月１日	中泉
上通町	明治33年５月15日	96	田中フミ		平澤マサ	96	明治33年８月25日	至宝町南
上表町	明治34年１月30日	95	新本春吉		大柳アサ	95	明治34年２月１日	上新町
東下台	明治34年２月７日	95	関本國平		鈴木長	95	明治34年７月15日	下横町
原坪	明治34年８月２日	95	鈴木トヨ		田中ヨシ	95	明治34年９月11日	至宝町南
上表町	明治34年９月21日	95	鈴木チカ					
北小林	明治34年10月25日	95	藤栄ベンノ	小結	賀長アキ	95	明治34年10月17日	下町
上田	明治34年12月12日	95	飯塚キクノ		白倉シズエ	95	明治34年10月28日	栄町
旭町	明治35年６月13日	94	坂本寳重		出井スイク	95	明治35年６月１日	釜ヶ渕
福和田	明治35年９月14日	94	黒川ミヨ		山川キクン	95	明治35年８月13日	台坪
下町	明治35年12月６日	94	賀長ヤス		荒川キンル	94	明治35年９月20日	上新町
					舩田ツル	94	明治35年12月20日	安塚中央
釜ヶ渕	明治36年１月17日	93	出井倉一郎	前頭１	福田徳太郎	93	明治36年１月18日	しもつけ荘
しもつけ荘	明治36年２月８日	93	河野辺英	２	青木ヨシ	93	明治36年２月27日	〃
中表町	明治36年３月１日	93	中村きよ	３	上野キエ	93	明治36年３月15日	万町
上町	明治36年３月17日	93	大関ハマン	４	篠崎テウ	93	明治36年３月26日	六美町北部
壬生下馬木	明治36年３月28日	93	鈴木レンツ	５	坂田ハツネ	93	明治36年４月25日	稲葉下馬木
下横町	明治36年６月28日	93	鈴木ハツネ	６	佐藤ツネヨ	93	明治36年７月18日	中泉
上通町	明治36年７月20日	93	奈良部峯吉	７	宇賀神タネ	93	明治36年10月16日	舟町
安塚一	明治36年10月21日	93	岩崎キヨシ	８	野口ともよ	93	明治36年11月５日	国谷本田
栄町	明治36年11月７日	93	人見ヨシーン	９	高山キンヨ	93	明治36年11月17日	国谷新田
至宝町北	明治36年12月１日	93	戸館喜シーン郎	10	山中キヨ	93	明治36年12月14日	安塚二
北小林	明治36年12月16日	93	鈴木シ四郎	11	栗原タネ	92	明治37年１月13日	三好町
東下台	明治37年２月１日	92	赤木ツ正義	12	橋本一郎	92	明治37年２月10日	馬場
下町	明治37年２月12日	92	落合イ	13	横倉キヨ	92	明治37年２月20日	上町
壬生下馬木	明治37年３月20日	92	石塚正クコ	14	森田マスと	92	明治37年４月15日	上田
幸町一丁目	明治37年４月25日	92	風間スキタツシ	15	杉山こと	92	明治37年６月12日	安塚南部
城南	明治37年７月２日	92	川俣ヨシメ	16	入江七五郎	92	明治37年８月４日	中泉
安塚二	明治37年８月17日	92	石島ヨシノ	17	甫坂サイ	92	明治37年10月24日	西高野
本郷	明治37年９月21日	92	小倉ヨシメ	18	高山マサ	92	明治37年11月25日	至宝町南
釜ヶ渕	明治37年11月18日	92	若林タキ	19	斉藤イソ	92	明治37年12月24日	中泉
中泉	明治37年12月１日	92	臼井トキ	20	石村キセ	91	明治38年１月15日	国谷中央
しもつけ荘	明治38年１月５日	91	須田元吉	21	石塚正忠	91	明治38年２月10日	壬生下馬木
本郷	明治38年１月15日	91	板子長巳	22	高橋キチ	91	明治38年２月26日	しもつけ荘
東下台	明治38年２月13日	91	海老澤継	23	渡邉岩五郎	91	明治38年３月５日	国谷外道
福和田	明治38年３月１日	91	大豆生田金一郎	24	鈴木タメ	91	明治38年３月27日	安塚二
国谷中央	明治38年３月15日	91	赤羽根恒弥	25	松本志んん	91	明治38年４月14日	下表町
幸町三丁目	明治38年４月10日	91	塩沢操	26	折原林松	91	明治38年５月１日	本郷
城南	明治38年４月25日	91	湯沢イク	27	若井眞平	91	明治38年５月22日	城南
下表町	明治38年５月15日	91	岸きくの	28	鈴木理一郎	91	明治38年６月18日	安塚一
城内	明治38年６月３日	91	松本フヂ	29	井上徳治	91	明治38年９月２日	馬場
安塚三	明治38年６月27日	91	渡邉チカ	30	黒川タケ	91	明治38年10月15日	原宿
田向	明治38年９月13日	91	前原廣吉	31	橋本キワ	91	明治38年11月３日	馬場
緑町四丁目	明治38年10月25日	91	坂本たかづ	32	荒川ソヨ	91	明治38年11月22日	上町
至宝町南	明治38年11月３日	91	麦倉志ゲン	33	鯉沼ワカ	91	明治38年12月５日	鹿島
福和田	明治38年12月１日	91	安納ゲマサ	34	川場サク	90	明治39年１月15日	下町
落合	明治38年12月23日	91	栗原マサ子	35	戸館カヨ	90	明治39年１月27日	至宝町北
仲通町	明治39年１月18日	90	石崎冨子	36	田崎八郎	90	明治39年２月10日	六美町南部一
原宿	明治39年２月14日	90	倉井庄一郎	37	三上マツ	90	明治39年３月２日	城南
上長田	明治39年３月17日	90	中川ナミノ	38	鈴木昇吉	90	明治39年３月23日	緑町一丁目
城南	明治39年４月５日	90	青木ナイシ	39	鮎田要	90	明治39年４月12日	城東町
六美町南部二	明治39年４月22日	90	中川ふみ	40	海老沼マツ	90	明治39年５月27日	前宿坪
しもつけ荘	明治39年５月24日	90	渡邉初子	41	中村重作	90	明治39年７月７日	中泉
仲通町	明治39年５月30日	90	清水力ツ	42	水野シナ	90	明治39年７月20日	上通町
旭町	明治39年７月11日	90	戸崎佐一郎	43	奈良ハナル	90	明治39年８月17日	中央
万町	明治39年８月２日	90	大島政一	44	中川利政	90	明治39年９月20日	安塚二
緑町三丁目	明治39年８月22日	90	冨田かねイ	45	篠崎光一	90	明治39年10月12日	国谷外道
中泉	明治39年９月25日	90	荒川キイメ	46	中山フサ	90	明治39年10月28日	至宝町北
今井	明治39年10月26日	90	町田ウメ	47	大門シモ	90	明治39年11月15日	しもつけ荘
台宿	明治39年11月１日	90	山口善吉	48				
国谷新田	明治39年12月18日	90	高山ハツ	49				
				50				

フォト特集

9月4日

震度7の直下型地震が町を直撃

～栃木県総合防災訓練～

想定

地震発生時刻：９月４日(水)午前８時10分
震 源 地：壬生町付近の地下14キロメートル
規　　模：マグニチュード7.2
震　　度：７(激震)
被害状況：町内各所で家屋が多数倒壊、火災、道路、橋梁の損壊などのほか、電気、ガス、水道などの生活関連施設にも甚大な被害が発生。
対　　策：県と町は、災害対策本部を設置し、被災住民の救助にあたるとともに関係機関と協力して、応急対策を実施。また、知事は事態を重視し、自衛隊に対して災害派遣を要請。

９月４日(水)、栃木県並びに壬生町主催の栃木県総合防災訓練が、羽生田地内 黒川河川敷を会場に、38の関係機関・団体（参加人員1、416人）が参加協力して実施されました。

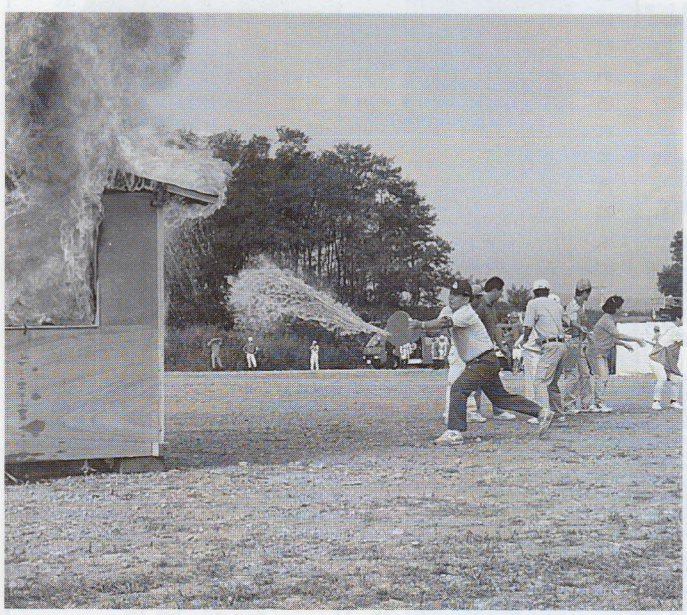
この訓練は、栃木県地域防災計画並びに壬生町地域防災計画が修正されたことに伴う災害時の防災活動の円滑化、相互協力体制の強化、地域住民の防災に対する理解と防災意識の高揚を図るために行われたものです。

当日は、壬生町付近を震源とする震度７の直下型地震が発生したとの想定により行われ、県内各消防本部の救助隊で編成する栃木消防救助隊の救出・救助訓練や避難誘導、建物火災消火、緊急送電、救護・血液輸送、医薬品空輸投下訓練などのほか、今回初めて実施される「自主防災組織による初期消火訓練」や今年３月26日に締結された「福島県・茨城県及び栃木県三県相互応援に関する協定による運用実施訓練」など24種目の訓練を実施。

また、一般の方々に体験してもらう地震体験・火災煙体験、救急法実演、消火器取扱訓練、浄水機を使用した給水訓練など12種目の体験訓練も行われ、参加者からは、「こんな大規模でリアルな訓練は初めて。地震の恐ろしさ、改めて普段の準備の大切さを学びました」「このように救援体制があることは、住民にとって心強いことです」などの声が聞かれました。

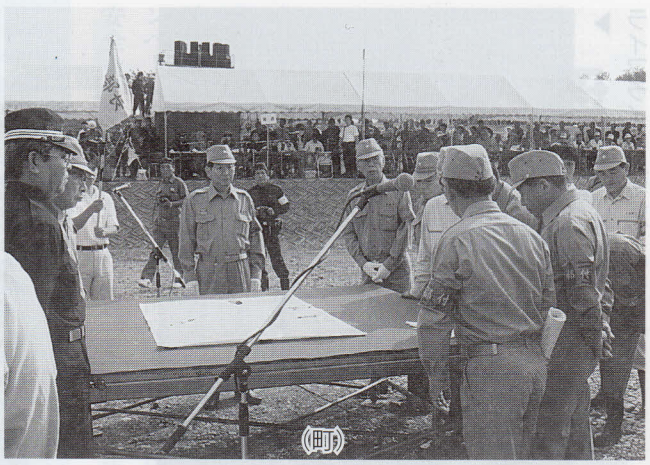
なお、町では大規模地震に備え、耐震用貯水槽を年度内に2基設置するなど、逐次整備を進めて行きます。

ここでは、訓練の様子を写真で紹介します。

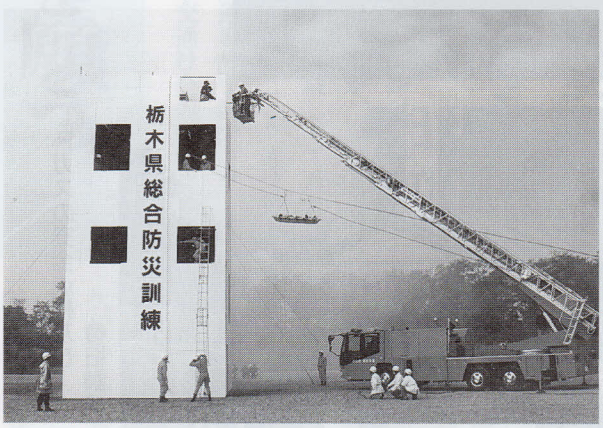


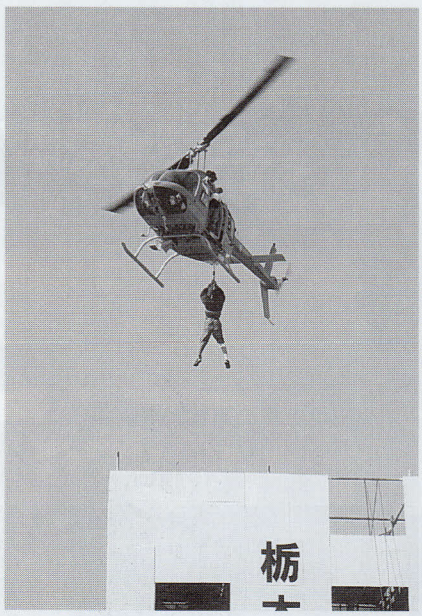
▲「自分たちの町は、自分たちで守る」という意識のもと、自主防災組織のバケツリレーによる消火訓練

◀ 県と町は、災害対策本部を設置



◀ 県内消防本部間で締結している応援協定により小山市消防のはしご車でビルの屋上の避難者を救助

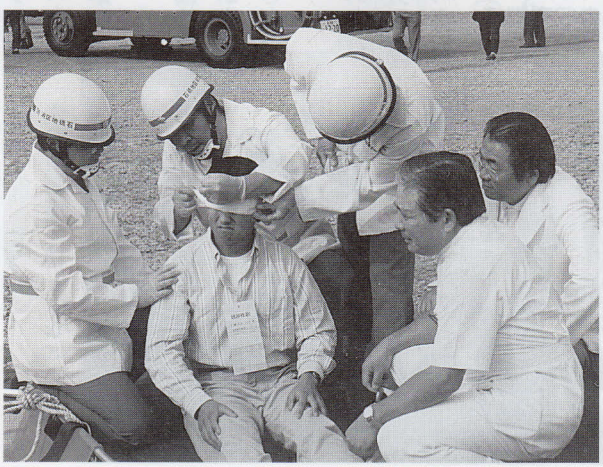




▶ 県警ヘリコプターによる救助・救出

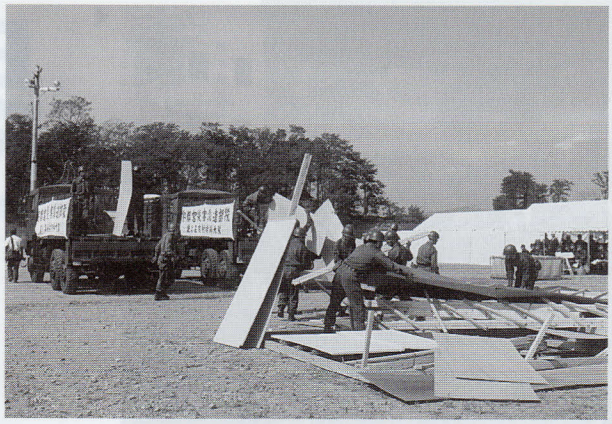
▲石橋地区消防相互応援協定により、出動した石橋地区の消防団の消火訓練

▶ 車に閉じ込められた被災者を救出する栃木消防救助隊



◀ 負傷者の応急処置を行う栃木県、下都賀郡市、壬生町医師会の先生方

◀倒壊家屋の撤去を行う自衛隊



▶ライフライン（電気）の復旧作業

▲稲葉小、羽生田小児童の避難誘導訓練

◀LPガスの安全点検及び復旧訓練

◀緊急物資の輸送及び荷おろし作業

▲三県相互応援協定により、茨城県防災ヘリコプターによる被災者収容訓練

▶日本赤十字は被災地に救護所を設営、負傷者の手当てを行う

▲負傷者を救護所へ移送する日赤奉仕団員

壬生町消防団による一斉放水

◀安塚幼稚園幼年消防クラブの防災の普及啓発を図る防火パレード

◀関心の高かった自衛隊非常食展示コーナー

◀訓練成果を視察する渡辺知事（左側）と清水町長（知事右隣）

大地震発生！その前に…

平穏な日常生活を突然襲う大地震。その発生を事前に予測することは困難です。しかし、地震が起きたときに一人ひとりが適切な行動をとることで、被害を最小限に食い止めることができるはずです。いざというときに落ち着いて行動するためには、日ごろから震災に対する心構えと備えを万全にしておかなければなりません。

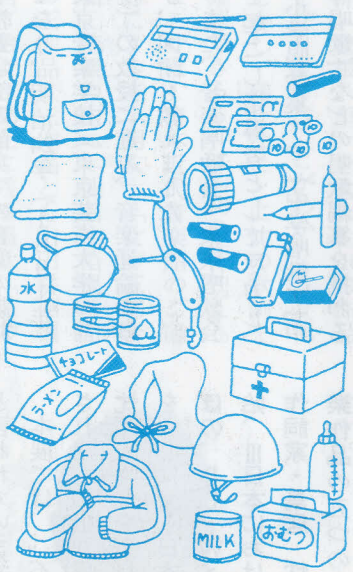
家族で「防災会議」を開こう

大地震の際、あわてずに行動できるよう、ふだんから次のことを話し合っておきましょう。

①家の中でどんな所が安全か
②非常持ち出し袋に何を入れ、どこに置くか
③非難するとき、だれが何を持ち出すか
④火元をだれがチェックするか
⑤消火器、救急医薬品、非常食などをだれが点検しておくか
⑥避難路や最終的な避難場所、連絡方法をどうするか

こうした事項について、家族の役割分担を含めて考えておきましょう。また、昼の場合と夜の場合、職場や学校など、家族がばらばらになっているときのことを考えて、確実に連絡し合える方法を決めておきましょう。

●非常持ち出し袋チェック項目



□	飲料水・水筒	一人1日3ℓが目安。2～3日は自力で生活することを考えて。
□	食料品	缶づめ・ビスケット・チョコレート・インスタントラーメン（赤ちゃんのいる家庭は、粉ミルク・ほ乳びんなども）。
□	医薬品	消毒薬、傷薬、胃腸薬、脱脂綿、ばんそうこう、包帯など。
□	貴重品	現金のほか、預金通帳や印鑑など。電話用に10円玉も用意。
□	ヘルメット・防災ずきん	落下物から頭を保護するものをすぐに取り出せる所に。
□	手　袋	ガレキの撤去や救助に、軍手など厚手のものを用意。
□	マッチ・ライター	湿気やガス切れに注意。防水マッチなども市販されている。
□	ロウソク	濡れないようにビニール袋に入れて保管する。
□	懐中電灯	夜間、すぐ手の届くところにも置いておく。
□	ラジオ	情報収集に欠かせない。懐中電灯と一体型のものもある。
□	乾電池予備	ラジオや懐中電灯に使用するものを多めに。
□	衣類	セーター・ジャンパー・下着など。雨具やタオルも用意。
□	毛布	寝袋や、体温を逃がさないサバイバルシートなども重宝。
□	ナイフ・缶切り	十徳ナイフなどの多機能ナイフが便利。

■これらは一般的な非常持ち出し品の目安であり、中身や量は家庭で話し合って工夫する。持ち運びはリュックサックタイプの背負える袋で。重量は、男性で15kg以下、女性で10kg以下となるように。
■家庭に**病人、妊婦、赤ちゃん**がいる場合は、担当医などに相談し、必要なものを用意。
■このほか、飛び散ったガラスによるケガを防ぐため、寝室などにも**厚手のスリッパや運動ぐつ**をあらかじめ備えておく。
■子どもには常に、氏名・血液型・連絡先（住所・電話番号・避難場所）・保護者名・学校名などを記しものを身に付けさせておく。

第9回企画展

『「箱根八里」と作詞家・鳥居忱』展を開催

◇期　間　10月19日～11月24日
◇会　場　町歴史民俗資料館
◇入館料　高校生以上 200円

音楽学校卒業写真（○印が滝廉太郎、△印が鳥居忱）

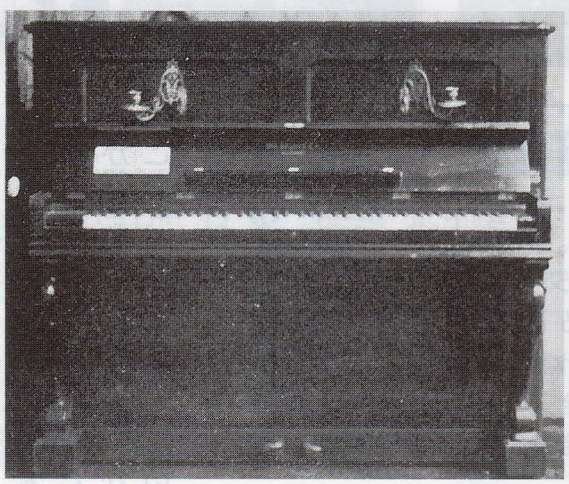
鳥居　忱　没後80年を記念して

町歴史民俗資料館では、第9回企画展として郷土の先覚者『「箱根八里」と作詞家・鳥居　忱』展を開催します。

『唱歌』「箱根八里」の作曲者は有名な滝廉太郎であることは広く知られています。しかし、だれが作詞したかを知る人は少ないでしょう。

今回、紹介する鳥居　忱はその作詞者であり、わが国近代音楽史上で音楽理論を説いた最初の人であるといえます。

忱は、壬生藩江戸家老・鳥居志摩の二男として嘉永6年（1853年）壬生藩士として江戸大名屋敷に生まれました。明治3年（1870年）大学南校（東京大学の前身）に学び、また外国語学校に入り、さらに明治13年いち早く、音楽取調掛（とりしらべかかり）（東京音楽学校の前身）のメーソンに師事し西洋音楽を勉強し、明治15年同掛を首席の成績で卒業、直ちに同職員に採用され、明治19年第一高等中学校（東京大学教養学部の前身）の音楽の講師となり、明治24年（1891年）東京音楽学校（東京芸術大学の前身）の教授に進み、音楽通論のほか、国語も教えました。


メーソンがアメリカより持参、愛用したピアノ
（東京芸術大学芸術資料館蔵）

また、音楽唱歌会・東京唱歌会を起こし指導者として尽力し、『小学唱歌集』や『中学唱歌』『中等唱歌』などの唱歌編纂を携わることによって日本国民に洋楽を普及させ、芸術音楽・教育音楽の在り方を示しました。

なお、大正初年までの間に音楽取調掛、文部省および東京音楽学校で出版した音楽図書で忱の手を経なかったものは一つもなかったと言われています。

本展では、"不朽の名曲"と称された「箱根八里」を作り上げた忱の人物像を東京芸術大学所蔵品を中心に、**Ⅰ日本近代音楽のあけぼの**、**ⅡＬ・Ｗメーソンと洋楽事始**、**Ⅲ日本における音楽教育**、**Ⅳ作詞家・鳥居　忱**、**Ⅴ鳥居　忱音楽作品**の五つのテーマで展示構成、紹介します。

この機会にぜひ、多くの方々にご覧いただき、近代音楽の先覚者・鳥居　忱の業績や人柄をご覧ください。

【企画展記念講演会】

「唱歌のあけぼの　―鳥居　忱とその時代―」

◇講　師　国立音楽大学名誉教授　小山　章三氏
◇日　時　10月27日（日）　午後1時30分～
◇会　場　壬生中央公民館研修室
◇定　員　100名（聴講無料）

※聴講希望の方は、町歴史民俗資料館（☎82―0108）までお申し込みください。

【展示説明会】

◇講　師　国学院大学栃木短期大学講師　渡辺　達也氏
◇日　時　11月10日（日）　午後1時30分～
◇会　場　町歴史民俗資料館展示室

※希望の方は、直接会場へお越しください。

展示品紹介

Ⅰ、日本近代音楽のあけぼの

わが国最初の音楽教材である音楽取調掛が制作した「唱歌掛図」（東京芸術大学）をはじめ、音楽取調掛が最初に編集した唱歌教材集の「小学唱歌集」（東京芸術大学）、また、文部省が刊行したわが国最初の音楽入門書「音楽問答」、「楽典」、「音楽指南」（東京芸術大学）を、さらに日本で本格的な音楽理論を説いた鳥居　忱の「音楽理論」（国立国会図書館）などを展示紹介します。

音楽入門書
（音楽取調掛刊）

Ⅱ、L・Wメーソンと洋楽事始

音楽取調掛（伊沢修二）は、音楽教師の養成と唱歌教材集の編集を行うため、アメリカの有名な音楽教育家メーソンをまねいて音楽教育にあたらせました。ここでは、音楽取調掛を設置した伊沢修二とメーソンの足跡を中心に展示紹介します。なお、東京芸術大学芸術資料館のご協力で門外不出といわれる「メーソンがアメリカより持参し、愛用したピアノ（クナーベ社製）」を初公開します。このピアノは音楽取調掛に最初に設置された日本で最初の本格的なピアノです。

伊沢修二肖像

メーソン肖像

Ⅲ、日本における音楽教育

音楽教育の流れを、唱歌教育と軍歌教育の二つのテーマから紹介します。音楽教育家・鳥居　忱は音楽界の重鎮となり、大正初年までの間に音楽図書で忱の手を経なかったものは一つもなかったと言われるように、多くの唱歌編纂に携わっています。ここでは、忱が手掛けた代表的な唱歌「大東軍歌」、「海戦史歌」（早稲田大学）、「近世唱歌集」、「支那征伐軍歌全集」、「戦響歌譜」、「忠君憂国歴史唱歌」（国立国会図書館）「かちどき」（東京学芸大学）「中等唱歌」（東京芸術大学）などを展示紹介します。

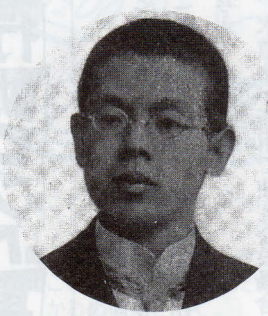
軍歌唱歌の代表作
「大東軍歌」
鳥居　忱著

Ⅳ、作詞家・鳥居　忱

今回の調査で鳥居　忱は、「君が代」が祝祭日儀式の歌（「祝祭日唱歌楽譜」東京芸術大学）に選定されたときの17人の委員の一人であること、また、天才作曲家・滝廉太郎と師弟コンビで名曲「箱根八里」（「中学唱歌」東京芸術大学）を作り上げたことがわかりました。ここでは忱の人となりを顕彰します。

Ⅴ、鳥居　忱音楽作品

今回の調査で鳥居　忱は、代表作「箱根八里」を含め約110の作品を作り上げたことがわかりました。しかし、残念なことに忱の歌詞を確認できるものは約60の作品です。ここでは、日本近代音楽館のご協力によって「羽衣」、「女声三部合唱　箱根の山」、「独唱　箱根の山」の三作品（三作品とも山田耕筰編曲）および郷土に残る唱歌「忠の道」、「永き誉」、「栃木高等女学校校歌」なども合わせて展示紹介します。


滝廉太郎肖像

「交通安全は家庭から」を強力に推進

ブロック別母親活動推進大会開く

栃木県交通安全母の会連合会主催のブロック別母親活動推進大会が8月8日、小山市、大平町など2市9町から約100名の会員が参加して壬生中央公民館で行われました。

これは、会員相互の教養を高め「交通安全は家庭から」の運動を強力に推進し、交通安全活動を地域に拡大を図るなど、交通安全への推進的役割を果たすことを目的に行われているものです。

大会は、手塚栃木警察署交通課長の講話や交通教育指導員による研修などのほか、田中ミヨ会長より壬生町交通安全母の会の活動状況が発表され、最後に、次の六つの大会宣言が採択され閉幕しました。

推進大会のようす

大会宣言

1．「とちぎの交通マナーを高めよう！」県民運動をすすめます。
1．「交通安全は家庭から」の運動をすすめます。
1．子どもやお年寄りを交通事故から守ります。
1．歩行者や自転車利用者を交通事故から守ります。
1．安全運転を励行します。
1．安全な交通環境を保持します。

かんぴょう踊りで連帯づくり

藤井むらづくりかんぴょう踊り大会実行委員会（長　博会長）主催の干ぴょう踊り大会が8月31日、藤井小学校校庭で行われました。

この大会は、伝統文化の伝承保存と地域の活性化を図るため、藤井むらづくり推進協議会が中心となり、藤井地区内の各自治会や各種団体で実行委員会を組織し、実施しているものです。

会場には、地区内外から大ぜいの人が訪れ、浴衣姿の子どもたちや揃いのはっぴ姿の人など、老若男女を問わずかんぴょう踊りを楽しみました。また、藤井小学校5年生によるかんぴょう音頭のお囃子も披露され、伝統文化が若い世代に引き継がれています。

家庭の地震対策〈図解〉

いざというときの行動ヒント集

火災を防ぐ②

周囲のものを“消火用具”に

火災といえば、わたしたちはすぐ、消防機関などを頼りにします。しかし、地震が起き火災が多発し、家屋やビルの倒壊により道路が寸断されたような状況では、消防機関などにすべてを期待するほうが無理というものです。

このようなとき、初期消火はもちろん、隣近所への延焼火災を防ぐのも自分たちで行わなければなりません。「自分の身は自分で守る」、これは、自主防災の基本的な考え方です。

ここでは、初期の火災の消火方法をご紹介しましょう。

ストーブ火災や天ぷら油火災には、濡れ布を使う消火方法があります。

また、小さな火であれば、キャベツのような大きな野菜の葉を押しつけたり、布に包んだ豆腐でたたき消したりする方法もあります。つまり、身の回りには、工夫次第で《消火用具》の代わりになるものが案外たくさんあるということです。どんな《消火用具》をどこに置いておくかを、ふだんから考えておきましょう。

水道水が断水で使えない場合は、貯水槽や浴槽、ビル内の室内消火栓、あるいは河川など身の回りの水を使って消火に当たります。一番手っ取り早い消火方法が、バケツリレーです。火が大きいうちはバケツを何杯か貯めて一斉にかけ、ある程度火が小さくなってきたら一杯ずつ、リレーで回して消火するのが上手な消し方です。

このように複数で消火に当たるときに大切なのは、効率よく作業を行うための具体的な指示です。近所の人や通行人などだれにでも大きな声で協力を呼びかけ、的確な指示を送ります。また、消火に当たる人、一人ひとりが「自分たちで消すんだ」という意識をもつことも大事なことです。

母親の手で築こう交通安全

全国キャラバン隊が来町

（財団法人）全日本交通安全母の会連合会・栃木県交通安全母の会連合会が主催となって、全国各地の母親の手による〝みんなですすめる交通安全〟をスローガンとしたキャンペーンを展開している全国交通安全キャラバン隊が8月23日、来町しました。

全国キャラバン隊は、平成7年中の交通事故死者が、全国で10，679人と8年連続して1万人を突破するなど、厳しい交通情勢下で悲惨な交通事故を減少させ、安全で快適な交通社会の実現をめざすため、母親の交通安全思想の普及を図り交通事故防止に努めようというものです。

この日は、壬生町交通安全母の会の会員や保育園児の歓迎のなかキャラバン隊が到着、壬生町交通安全母の会会長の田中ミヨさんより高齢者や若者の交通安全対策、シートベルトの着用の徹底などが盛り込まれた総務庁長官からのメッセージが福島助役に伝達され、福島助役より「町を上げて交通安全対策を図りますが、交通安全の推進には、皆さま方の協力が不可欠であり、これからもご協力をお願いします」とあいさつ、協力を呼びかけました。

総務庁長官からのメッセージを読み上げる田中ミヨ会長

さらなる平和を願う

終戦記念日の8月15日、慰霊碑管理委員会（佐藤三郎会長）主催による平和祈願祭が東雲児童公園内（三好町）の戦没者慰霊碑前で行われ、町遺族会、軍恩会、日傷会などから、約80名が出席しました。

平和祈願祭では、佐藤会長をはじめ、清水町長、粂川町議会議長、榎本教育長などがあいさつを述べ、先の大戦で祖国の礎となって身命を捧げた800余柱の英霊に今日の平和と発展を感謝しました。

最後に、全国戦没者追悼式に合わせ、出席者全員で正午から1分間の黙とうを行い、猛暑のなか、さらなる平和を願いました。

資料館コーナー

郷土の人々

「近世壬生の画人たち」（五）

高須　煥斎（たかす　かんさい）

1829年（文化12）～1893年（明治26）

諱（いみな）は信丘（のぶおか）、字（あざな）は大助といい煥斎と号しました。高須甘棠の長男として、文政12年壬生に生まれました。

父甘棠の影響から、おそらく谷文晁門に学んだのか、または高弟の誰かに指導を受けたと推測されます。明治19年頃に、煥斎一家は東京に移住し、文晁系の画壇の大家荒木寛畝、滝和亭（たきかてい）などとの交際がみられますが、画人としての生活を送ったのはわかりません。

明治維新前後における幕府直属の狩野派系の衰退は、生活の支えを失って、その窮乏は想像を絶するものでした。南画は類型化に堕した非難があったにしても、むしろ新しい社会への気運と漢字流行が、時代に則した南画（文人画）の隆盛をもたらしたことによって、関西に関東にと優れた画人の出現となって、多様化した明治画壇は盛況をみるようになりました。

煥斎は父甘棠よりも南画に徹していたようです。絵画の時代的変化より、むしろ文人的な感性が強く、明治の変動期に自らの画風に甘んじて、他の画人のような旺盛な作画活動を好まなかったようです。

かえって自分の環境にあった中で、多くの変化をみせずに逝ったのは、むしろ惜しい気がします。

煥斎は、明治26年10月31日に65歳で没しました。菩提寺は東京・玄信寺。

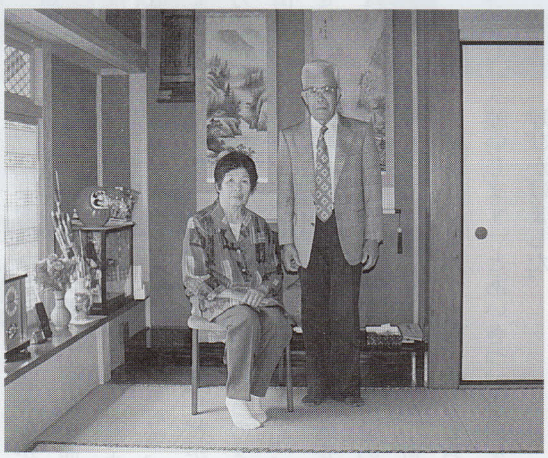
次回は、福田棠陰です。

（山水図）

い広場

お達者カップル 92

下町
渡辺　敏夫さん（７２）
　　トミさん（６９）夫妻



「私は、老人クラブの用事などで適当に体を動かしていること。そして、妻は、日本舞踊で体を動かしているのが健康の秘訣かもしれませんね」という渡辺さんご夫妻。

青春スケッチ 64

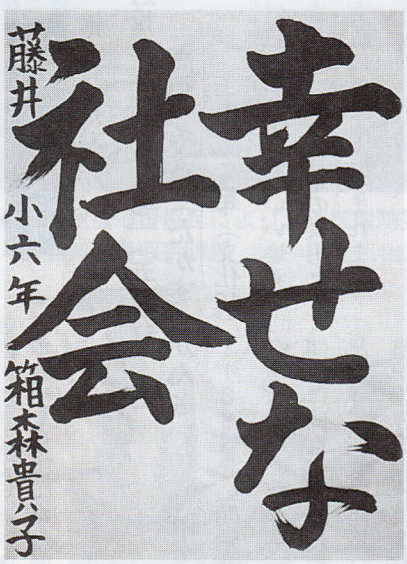
何事にも楽しみながら挑戦

六美町北部　　小林　明子さん

「現在、習っているテニスのほか、スキーなどのスポーツが好きです」と話す明子さん、「休日は山や川、温泉地などの自然の多いところへドライブに出掛けたり、料理をすることが多い」ということです。

何事にも楽しみながら挑戦したいという彼女、「これからもいろいろなことに意欲的に取り組んでいきたい」と話していました。

私の作品



藤井小学校６年
箱　森　貴　子

藤井小学校３年
熊　倉　正　典

ふれあ

敏夫さんは、昭和14年に稲葉尋常高等小学校を卒業、青年学校で2年間学んだ後、実家で農業に従事していましたが、昭和19年に召集により中国へ渡り、衛生兵として従軍、現地で終戦を迎え、昭和21年に帰国、実家に戻ってから再び農業に従事しました。

その後、鹿沼市奈佐原出身で昭和19年に鹿沼女学校を卒業後、実家で家事手伝いをしていたトミさんと昭和23年に結婚、その後もお二人で農業を続け、現在も米作を中心に作付けしています。

敏夫さんは、今までに農産物受検組合の会長や地区農村集団電話設置の際には役員として活躍され、今はお二人して参加している老人クラブの会長を務められ、会の事業として、国道352号線沿いの花壇に草花を植え環境美化を図っています。また、田畑を提供して稲葉小学校の児童に体験学習として、田植えやサツマイモ作りなどを指導しています。

お二人とも旅行が趣味で、近所のお友だちと作った旅行会で、年1回の旅行と年5～6回の日帰り旅行が楽しみだそうで、できるかぎり長く続けてゆきたいと話していました。

全日本少年剣道錬成大会
壬生町少年剣道教室が準優勝

準優勝の壬生町少年剣道教室チーム

（財）日本武道館、（財）全日本剣道連盟主催の平成8年度全日本少年剣道錬成大会が7月27日、全国から約1、600チームが参加して、東京都日本武道館で行われました。

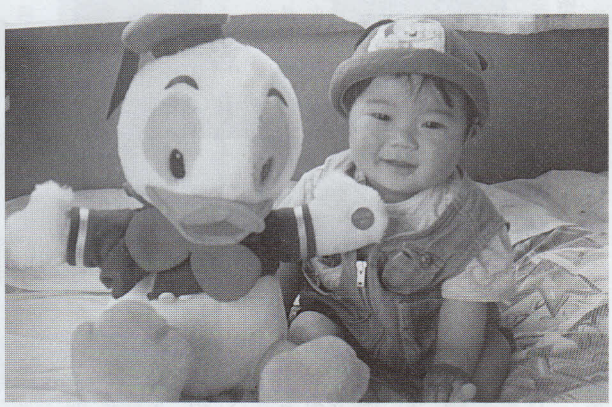
大会は、参加チームを16試合場に分けて行われ、本町から参加した壬生町少年剣道教室（三上義市師範、白石英明監督）チームは、第8試合場に出場、平素の鍛練の成果を遺憾なく発揮、初戦から試合場決勝までの5回戦を圧倒的な強さで勝ち進みコート優勝を飾り、ブロック決勝へと駒を進めました。

決勝戦は、屈強揃いの東京都東松館道場チームと対戦、惜しくも敗れましたが、選手全員が持てる力を十二分に発揮し、準優勝という輝かしい成果をおさめました。

◇**出場選手**（監督　白石　英明）

・金田　孝一（壬生小6年）
・鈴木　一真（壬生小6年）
・山崎　勝哉（壬生小6年）
・鈴木　遼子（稲葉小6年）
・白石　拓磨（壬生小6年）
・福田　建太（壬生小5年）

チビッ子アルバム



凌（りょう）ちゃん（11か月）
（父）大塚　　誠　さん
（母）〃　美由紀さん
（県営壬生住宅）

お母さんから一言
元気でたくましい子になってね！

啓一（けいいち）ちゃん（2歳）
（父）村井　和彦さん
（母）〃　初江さん（城内）

お母さんから一言
元気で素直なやさしい子になってね！

「チビッ子アルバム」に出てくれるお子さんを募集しています。ご希望の方は、写真に簡単なメッセージを添えて町企画財政課広報広聴係（☎82－1234　内線212）までお送りください。

親と子の考古学教室

焼けたぞ！「縄文土器」

“考古学“という、かたいイメージを想像してしまう分野の学問を体験学習を通して理解してもらおうと、夏休みを利用した「親と子の考古学教室」が7月28日・8月11日・8月25日の3日間、親子30人が参加し、町歴史民俗資料館などで行われました。

野焼きのようす

初日の7月28日には、はにわ友の会（人見治男会長）の指導で、縄文土器づくりに挑戦、親子が協力して粘土だらけになりながら全員がつぼやかめなど思い思いの縄文土器を作り上げました。

8月11日の2回目は、古代のアクセサリーづくりを行い、県埋蔵文化財センターの篠原祐一氏の指導のもと、見事な「まが玉」を完成させました。

最終日は、嘉陽が丘ふれあい広場に会場を移し、初日に作った縄文土器の野焼きを行い、全員が汗まみれになりながら、一つも割れるものがなくりっぱな縄文土器を焼き上げました。その後、レプリカの縄文土器を使い、はまぐりや鳥肉の縄文時代の煮炊きを体験、グツグツ煮える様子に、多くの子どもたちの目が輝いていました。

焼きあがった縄文土器を手にする参加者のみなさん

PRIMOチームが優勝

町家庭婦人バレーボール協会（渡辺清雄会長）主催の第18回体育協会長杯家庭婦人バレーボール大会が6月23日、町総合運動場体育館で行われました。

この大会は、県民スポーツ大会の町予選も兼ね町内から7チームが参加、ファイトあふれる試合が展開されました。

試合の結果、チーム結成1年半のPRIMO（プリモ）チームが見事優勝を飾り、8月25日宇都宮市で行われた県民スポーツ大会に出場しました。

成績

優　勝　PRIMO（プリモ）チーム
準優勝　まどかチーム

優勝のPRIMOチーム

第9回全国警察少年剣道大会

二ノ宮くん（壬生小6年）全国大会優勝（団体）

8月7日、東京・警視庁武道館で行われた第9回全国警察少年剣道大会で、二ノ宮雅宏くん（下横町）がチームの一員として参加した小山警察署少年剣道チームが日本一に輝きました。

二ノ宮雅宏くん

本大会は、全国から48の警察少年剣道チームが出場。試合は小学生3名、中学生2名による5人制団体戦で争われ、二ノ宮くんは、決勝戦で中堅として二本勝ちをするなど、目覚ましい活躍をみせました。

地下歩道へ壁画を描く

完成した壁画と堀口さん親子

壬生駅地下歩道内に、駅東に在住の堀口正人さん親子が、お子さんの夏休みを利用して描いた壁画が、この程完成しました。

壁画は、少女と動物がかけっこをしているところをイメージしたものです。

地下歩道内には、まだ壁画を描く区画がありますので、ご希望の方は、町建設部都市計画課（☎82―1234内線152）までお問い合せください。

夏祭りカメラスケッチ②

安塚コミュニティ盆踊り大会

安塚地区コミュニティ推進協議会恒例の盆踊り大会が8月10・11日の両日、安塚小学校校庭で行われ、自治会や育成会などから大ぜいの踊り手が参加、かわいい浴衣を着た子どもたちが元気よくかんぴょう踊りを踊っていました。

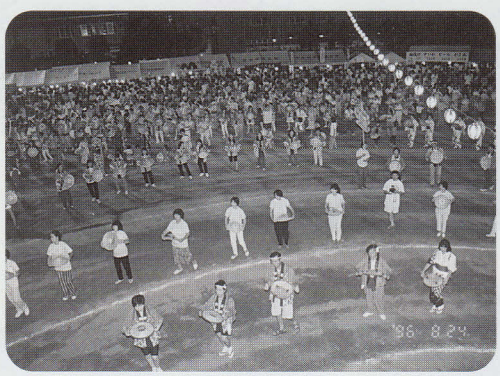
'96睦サマーフェスティバル

8月10・11日の両日、おもちゃのまち駅東口広場を会場に『'96睦サマーフェスティバル』が行われ、《あんたが主役だ……コミュニティ》をテーマに、睦の芸能人集合やバンド演奏、ゲームなど多彩なイベントで賑わいました。

ふるさとまつり

夏の恒例行事、ふるさとまつりが8月23・24日の両日、町総合運動場で行われ、延べ2万人の人で賑わい、かんぴょう踊りや花火大会などに、過ぎ行く夏の夜を満喫していました。

おはやしの皆さんご苦労様でした


幾重にも輪ができたかんぴょう踊り

大ぜいの人でにぎわったふるさとまつり

芸文 文化協会文芸部選

短歌

病みおれば今年かぎりか夏祭
寂しきことは人に語らず
正田良次郎

寝ぐるしき昨夜の夢にふるさとの今は亡き親も友も健やか
渡辺真夕美

とりたてて誌す事なき今日の日記梅酒つくりしことだけを書く
黒尾　チエ

忍び入りし猫がテーブルに足跡を残したるまま悠々と去る
野口　富代

俳句

澄み透る蜩(ひぐらし)せわし蕎麦を打つ
高橋　田鶴

駐車場混む病院の大旱(ひでり)
伊沢　克明

炎天下御詠歌洩れ来寺(く)のみち
石原　早苗

炎天下家紋打ちたる鬼瓦
落合　清二

第１回
おもちゃフェスティバル

◎日　時　１０月２６日(土)・２７日(日)
午前１０時～午後４時
◎会　場　おもちゃ博物館南側広場
（おもちゃ博物館に入館するには、チケットが必要です）

平成７年度に開催された国民文化祭を記念し、毎年恒例のポスト国民文化祭として、さまざまなイベントを行います。
ぜひ、ご来場のうえ、楽しいひとときを過ごしてみませんか！

イベント案内

☆ステージの部

10月26日(土)

時　間	内　容
10:30～11:30	秋のちびっ子クイズショー
11:30～12:00	ピエロミニサーカス
12:40～13:40	秋のちびっ子クイズショー
14:00～14:30	ピエロミニサーカス
14:30～15:30	秋のちびっ子クイズショー

10月27日(日)

時　間	内　容
10:30～11:30	秋のちびっ子クイズショー
11:30～11:50	森の動物バンドショー
12:30～13:30	秋のちびっ子クイズショー
13:30～13:50	森の動物バンドショー
14:00～15:00	秋のちびっ子クイズショー
15:00～15:20	森の動物バンドショー

☆ファファの部（両日とも10:00～16:00）

ファファビックベアで楽しく遊びましょう。

☆動物ぬいぐるみとのふれあいコーナー（両日）

動物ぬいぐるみと写真を撮ったり、握手をしたり、楽しくいっしょに遊びましょう。

☆らく焼き教室（両日）

らく焼きにチャレンジしてみませんか。（実費負担）

☆スタンプラリーの部（両日とも10:00～16:00）

各ポイントを回り、スタンプを押してゴール。（抽選によりすてきな賞品があたります）

☆問合せ先

壬生町おもちゃ博物館　☎８６―７１１１

まちのうごき

９月１日現在

総人口	40,009人	（102）
男	19,697人	（52）
女	20,312人	（50）
世帯数	12,440世帯	（32）

（　）内は前月比

10月の納税等

●町県民税（３期）
●国民健康保険税（４期）
●国民年金
（10～３月分前納）
（10月分）
（納期限10月31日）

納期限間際は、納付窓口が大変込み合います。早めに納付しましょう。

寄付

（社会福祉協議会）
（○数字は寄付回数）

金１万６千円⑬　稲葉地区カラオケ愛好会様
金８８８円①トロエメンクラブ様
金５千円①　柏倉　長一様
金５千円①　伊藤　歸一様
金１万円①　匿　名　様
金７万６千９６円①　日本歌謡師範連盟栃木県支部様
金５千６０７円⑧　ａｍ・ｐｍ壬生本丸店様
金３６２円②　佐藤　史子様
金５千円③　森下　啓一様
金３千円①　山口　初代様
金１万円⑤　㈲県南環境様